

学校評価

1めざす学校像

<ul style="list-style-type: none"> ○ しつけ教育に力を注ぎ、道徳の涵養に努力し「強く、正しく、優しい」人間を育成する。 ○ 生徒個々の個性、適正を充分に考慮指導し、希望する「目標」に到達できるように努める。 ○ 国際社会をはじめ、あらゆる社会において活躍できる「ボランティア精神」の育成に努める。

2中期目的

<p>1学習指導 予習復習を怠らず、自ら種々の研究材料を選び、自発的に学習する力をつける 生徒個々の学習状況に応じた指導体制の構築</p>
<p>2生活指導 基本的な生活習慣の確立 校舎内外の整理整頓、環境の浄化 社会的ルール、交通規範の遵守</p>
<p>3進路指導 安易な進路選択を避け、自らの目標を高めに設定した上で、それに向けて最後まで努力することができる人間の育成</p>
<p>4生徒会・JRC 文化祭・体育祭等の行事に対し、生徒の自主的な取り組みができる力を身につける 各クラブ活動が活性化されるよう、活動を全生徒に促進しその協力をしていく 生徒自身が学校内での様々なルールを見直し、自分たちが作り上げたルールを遵守する力を身につける JRCの精神のもと、社会において様々な場面で活躍できる「ボランティア精神」の育成に努める</p>

2

令和4年度 学校評価アンケート集計結果 ＜教職員による自己評価＞							
分類	評価の観点	評価項目	設問	評価 A(%)	評価 B(%)	評価 C(%)	評価 D(%)
学校運営	私学の独自性	1. 教育方針	教育方針が生徒・保護者に理解されている。	13%	44%	36%	8%
		2. 愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	13%	41%	34%	13%
		3. 集団行動について (体育実技)	生徒集団の規律維持に役にたっている。	18%	56%	21%	5%
	教育課程	4. 学習指導要領の 対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っている。	31%	62%	5%	0%
		5. 教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立て、計画に基づき実施している。	33%	56%	8%	0%
		6. 新教育課程 (26年年度入学生対応)	新教育課程は生徒の実態にあっている。	13%	46%	36%	3%
	教科指導	7. 指導内容	各教科は指導内容の工夫・改善につとめている。	31%	54%	13%	0%
		8. シラバスの作成	生徒が年間の授業内容・進度等を良く理解できるように、綿密なシラバスを自ら作成している。	26%	49%	18%	5%
		9. 指導方法	教科内の意志疎通が十分である。	10%	64%	18%	5%
		10. 授業内容	生徒が授業内容に満足するよう、自分自身は十分な準備をした上で授業に臨んでいる。	33%	51%	13%	0%
		11. 授業開始	授業はチャイムと同時にスタートしている。	54%	36%	5%	0%
		12. 発問	適切な発問をすることで、生徒の集中力が持続できるよう自分自身心がけている。	38%	54%	5%	0%
		13. 板書	適切な発問をすることで、自分自身わかりやすい授業を心がけている。	46%	46%	5%	0%
学校運営	教科指導	14. 定期的な課題	授業内容の定着を図るために、自分自身生徒に課題を定期的に課している。	38%	49%	10%	0%
		15. 生徒の満足度	生徒の満足度自分自身の授業を受けることにより、生徒は満足している。	15%	62%	21%	0%
		16. 学力向上	自分自身の授業を受けることにより、生徒は学習に対する意欲をかき立てられ、学力を伸ばしている。	18%	51%	28%	0%
		17. 成績評価	成績の評価基準・方法は教科方針に沿い適切に実施している。	38%	44%	15%	0%
		18. 家庭学習について	各教員は、家庭学習の習慣を積極的に生徒に身につけさせている	13%	44%	38%	3%
教職員連携	19. 校務分掌における 教員の連携状況	分掌内で相互理解がなされ、信頼関係に基づき教育活動が行われている。	15%	46%	28%	10%	

		20. 学年団における教員の連携状況	学年内で相互理解がなされ、信頼関係に基づき教育活動が行われている。	18%	46%	31%	5%
教育内容	情報教育	21. 情報モラル指導	情報発信に伴う責任など情報のモラル面の教育を十分取り組んでいる。	18%	49%	28%	3%
	人権教育	22. 退学生徒について	退学生徒の防止について各教員は積極的に取り組んでいる。	15%	49%	33%	3%
		23. 家庭訪問	退学生徒の防止のため、自分自身家庭訪問を積極的に実施している。	15%	51%	26%	8%
	環境教育	24. 環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	15%	36%	36%	13%
		25. 実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	31%	49%	15%	3%
	生徒会活動	26. 生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう、学校全体が支援している。	21%	36%	31%	10%
	その他	27. 部活動	自分自身は部活動の顧問活動を積極的に取り組んでいる。	38%	33%	15%	10%
		28. ボランティア	ボランティア活動は活発である。	13%	28%	38%	21%
		29. 学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発である。	15%	36%	46%	3%
		30. 国際理解	修学旅行を通じて他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	8%	31%	38%	23%
31. 公開授業		公開授業は自分自身積極的に取り組んでいる。	15%	38%	23%	21%	
生徒指導・支援	生徒指導	32. 生徒指導の一貫性	生徒指導は共通の方針に基づき、各教員は校則やきまりをきちんと生徒に守らせている。	8%	46%	36%	10%
		33. 礼儀・あいさつについて	生徒の指導体制に組織的に対応する集団指導の体制がある。	8%	36%	47%	9%
		34. 家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携ができています。	13%	49%	33%	5%
	生徒支援	35. 自習室の設置について	自習室は生徒の学習支援の場として機能している。	10%	59%	23%	8%
		36. 進路指導について	受験に際し、生徒の学力に応じた分析等の支援体制がある。	10%	64%	18%	8%

自己評価アンケート結果

私学の独自性 教育課程の観点は、おおむね高評価である。
 教科指導の観点も総じて良い評価となっている。
 また、授業内容・授業開始・発問・板書など高評価だが、教員の自覚をさらに促していきたい。
 教職員連携について、分掌・学年・コースでさらに有機的連携を図れる取り組みをおこないたい。
 教育内容の観点から環境問題という今日的な課題が見られる。
 生徒会・部活動・国際理解・公開授業に課題が見られるが、コロナ渦の影響が大きいと考えられる。
 ボランティアについてもコロナ渦での活動が検討材料となる。
 生徒指導・支援の観点についてもさらに拡充を図りたい。
 課題となる点については、今後とも改善、意識啓発等努力してゆく。

3 本年度の取組内容

中期目標	今年度の重点目標	具体的な計画	評価指標	自己評価
学習指導	成績不振生徒対策	・学期ごと欠点者に対するの補充実施	欠点科目克服をめざさせる	欠点科目をもつ生徒への意識改革は進んできた。
	自習室の活用	・低学年からの自習室の利用促進	昨年よりの増員	低学年の利用率増加傾向。
	講習の充実	・授業終了後の78限を活用し課外特別講座実施	23年特進・進学コース実施 3年総合コース実施	23年特進コース全員参加で実施。 進学・総合コースについては、希望者対象に実施。
	長期休暇中講習	・夏期、冬期、春期講習の実施	全学年での実施	全学年で実施。 3年生については進路目標に向け実力養成に努めた。 12年生については、基礎力充実、さらに特進コースでは応用力強化に努めた。
	勉強合宿	・夏期勉強合宿実施 ・冬期勉強合宿実施		2年特進コース全員を対象とし、 夏期講習の仕上げとして成果を上げた。 2年進学コースを対象に、次年度3年受験生として

				の意識付けができた。
生活指導	挨拶の励行	・学年、コース集会実施	集会を月1回以上実施	学年・コース集会の中で培われた行動が日々の生活(授業及び学校生活)中でも自然とできてきていると思います。
	全校朝礼	・毎週金曜日全校朝礼実施	全体の集合する早さ、整列の整い方	本校独自の全体集会で、1000名弱の生徒が意識して行っています。コロナが5類となり、クラス・コース単位でやっていたものを全体で行うように戻しました。
	社会的規範遵守	・講演会実施	外部より講演いただく	大阪府警より薬物問題(特に大麻)についてのDVD視聴したり、対面式の講演会を実施している。
	交通ルール遵守	・学校周辺道路立ち番実施	登下校時の周辺道路等見守り強化	原則授業日は見守り実施、地域のボランティアの方々と連携しながら登下校の密集を避け、交通ルールの遵守、挨拶励行など評価ができる。またヘルメット着用を奨励している。
	校舎内外の清掃活動	・全体清掃を月に1回	いつも自分たちの使う場所をいつもきれいに	月に1度の全体清掃を含め、毎日の清掃により多くの生徒が校内外美化を意識し、徹底して行っている。
生徒会 JRC活動	新入生の学校活動へのスムーズな導入	・新入生校内オリエンテーション及び宿泊オリエンテーション	生徒会・JRC役員らの自主性を重んじる	このオリエンテーションにより多くの新入生の緊張が緩和され、スムーズに学校生活のスタートを切ることができた。宿泊も4年ぶりの再開となり新たな仲間との充実した時間を過ごすことができた。各クラブが積極的に入部の勧誘に取り組んだ。生徒たちの工夫を凝らした取り組みが見られ、成功裏に終了することができた。生徒および教員も一丸となり積極的に取り組んだ。
	各行事の遂行	・新入生クラブ紹介 ・文化祭としての取り組み ・体育祭としての取り組み	文化的な取り組みの喚起 生徒の自主性を重んじる 生徒全員の充実した参加	5団対抗で学校全体が非常に盛り上がった。府立体育会館を会場に、様々なパフォーマンスを発揮する生徒が多く見受けられた。また3年生全員によるマスケームはそれぞれが本校の伝統を引き継ぎ、下級生や教員・保護者たちに大きな感動を与えた。
	ボランティア活動の啓発	・義援金の募金活動 ・JRCTレーニングセンターへ参加 ・献血ボランティア等への参加	生徒自身の自主性を促す "	生徒の自主的な取り組みが大きく見られた特に、文化祭での世界平和に対する取り組みや募金活動では、多くの義援金を日本赤十字社へ送ることができた。赤十字社の理念のもと、多くの赤十字に関する知識を学び、自己の生活内及び学校内でもその知識を活かすことができた。校内献血においては生徒・教員だけでなく近隣の方々にも協力を得ることができた。
進路指導	進路意識の育成	・進路意識を向上させる。	進路希望調査の実施(全学年で4月と9月に実施)	大学進学を希望する生徒の割合が一番多いという傾向は変わらず。各学年の4月時点での大学進学希望者を見てみると、1年生の大学進学希望者は57.8%、2年生の大学進学希望者は75.0%、3年生の大学進学希望者も75.0%であった。
	進路指導部による進路行事の充実	・職業分野別説明会の実施。 ・大学の模擬講義を実施。 ・進路講演の実施。	対象:1年生。 生徒は複数講座から職業講座を2つ選択し、自分が選択した職業を学んだ。狙いは『職業観の育成』である。 対象:2年生。 生徒は複数講座から学問講座を2つ選択し、自分が選択した学問を学んだ。学部・学科について知ることを狙いとしました。 対象:1年生 職業観を高め、今自分が残り2年の高校生活においてすべきことを考えさせることを狙いとしました。	生徒たちは講座に集中し、時折メモを取る姿も見られた。文理選択の直前ということもあり、を決める時期でもあり、生徒たちは自分が文系に行くのか理系に行くのかの判断材料のひとつにしようとしているようであった。 5年前からただの「説明会」という形式をやめて大学教員による「模擬授業」という形式に変えた。 この年で6回目となるが、授業が上手な教員が多く、生徒たちも引き込まれているようだった。自分の進路選択について考えるきっかけとなったようである。 大学イノベーション研究所の所長、山内太地さんを講師としてお招きし「将来の進路の選び方」というテーマで講演をしていただいた。 感染症拡大防止のため、質疑応答は質問用紙に前半は講義形式であった。後半は質問タイムであったが、たくさんの

				生徒たちが手を挙げ、山内氏はひとりひとりの質問にわかりやすく説明を加えてくれた。
		・進路講演の実施。	対象:2年生 進路意識を高め、進路の実現に向けて今何をすべきかを考えさせることを狙いとした。	マイナビから講師を招いて「進学とその先を考えよう」をテーマに講演をしていただいた。今この時期にすべきこと、考えるべきことを身近なところからわかりやすく解説していただいた。
		・進路説明会の実施	3年生の生徒対象。 二部制で実施。 第一部は進路全般。 第二部は4分野からの選択	第一部での進路全般についての説明により、大まかな流れをつかむことができたように思われる。
		・進路講演の実施。	対象:3年生文系特進・理系特進、進学コース(総合コースは希望者)。 また同じ講演を、1・2年の希望者にも聞いてもらった。	また、第二部では「大学・短大」「看護医療」「専門学校」「就職」の各分野において理解が深まり、進路選択に役立てていた。
		・志望理由書書き方ガイダンスの実施。	対象:3年生看護医療系特進コース 第一学習社より講師をお招きし、志望理由書の書き方をテーマに講演をしていただいた。	近畿大学の屋木清孝氏を講師にお招きし「大学入試突破のために～夢実現に向けて～」という演題で講演をしていただいた。ユーモアを交えたわかりやすい講演でありこれから受験に向けて本格的に勉強をスタートさせようという生徒たちにとっていい刺激となった。
	進路指導体制の強化・進学実績を向上させる。		進路決定率の向上。	また、1・2年生も今後の過ごし方について考えるきっかけとなった。
			大学進学率の向上	看護医療系の大学や専門学校の受験で必要となるであろう「志望理由書」や「自己PR」などの書き方についてわかりやすく話をしていただいた。
				昨年同様、「どういふふうにして書くのか」「どういふふうにして発想をひろげていくのか」がわかる、生徒たちにとって発見の多い講演であった。
				本年度の進路決定率は96.1%であり、前年度よりも0.7ポイント上昇。 今後も進学率100%をめざして、しっかり取り組んでいきたい。
				国公立大学の合格はなかったが、関関同立61名、産近甲龍220名、摂神追桃386名、と学校始まって以来の関西12私大の合格を出すことができた。

学校評価委員会からの意見

学校運営について

教育方針に則りしっかり運営されていると思われます。生活指導・進路指導等しっかり機能していると感じています。

教育内容について

教科指導は十分されていると思われます。学力上位層のせいとへの進路指導などきめ細かになされているとおもいます。また、学力下位層の生徒たちにも、日頃からのアプローチや欠点対策など丁寧な指導がなされています。各層の生徒たちにさらにきめ細やかな指導の徹底をお願いします。

生徒指導について

挨拶にど確実に礼儀正しくなっていると思われます。また校内美化の取組などしっかり指導されているものと感じます。しかしまだ、電車内や自転車のマナーについて充分でないところもあるようです。公共道徳などさらに指導の徹底をお願いします。